

2004 年度 委員会活動成果報告

(年 月 日作成)

委員会名	環境行動研究小委員会	主 査 名：鈴木 毅
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：服部岑生
設 置 期 間	2004 年 4 月 ～ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	環境行動研究の視点から、「体験される場所の質」を取り扱う研究方法論、デザインのあり方の構築に向けて、理論的および具体的なケースを対象とした検討を行う。2005 年度は引き続き「体験される場所の質とデザイン」に関する単行本の編集作業を行うとともに、単行本の出版を踏まえてシンポジウム・ワークショップを開催する。	
委員構成 (委員名 (所属))	足立啓 (和歌山大学) 大野隆造 (東京工業大学) 黒野弘靖 (新潟大学) 小松尚 (名古屋大学) 鈴木健二 (鹿児島大学) 鈴木毅 (大阪大学) 高橋鷹志, 橋弘志 (実践女子大学) 西田徹 (武庫川女子大) 西出和彦 (東京大学) 花里俊廣 (筑波大学) 舟橋國男 (大阪大学) 三浦研 (京都大学) 森 一彦 (大阪市立大学) 横山ゆりか (東京大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	場所研究WG (「体験される場所の質とデザイン」の刊行)	
2004 年度予算	345,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004/05/09 6名, 2005/01/19 7名
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 建築心理, 環境心理学, 設計方法, 建築計画学における人間-環境系モデルの検討を行うとともに, 環境行動研究の視点からみて興味深い, 具体的な場所の見学・ワークショップを行い, その場の質を記述・分析・デザインする方法論について議論した,
	委員会 HP アドレス:
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 「場所の質」は建築が社会に提供する最も基本的な価値である。 立派な施設, 美しい建築が, 必ずしも豊かな場所を提供してない我が国の現状に対し, 環境行動研究の視点から, 場所の質をデザインする方法論を提示する方策を示した。

その他評価すべき 事項	
----------------	--